

2019年度  
第5回 理事会議事録

2019年 9月 19日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

# 2019年度 第5回理事会議事録

1. 日 時 2019年 9月 19日 (木) 12:20~14:40

2. 場 所 鉄鋼会館 805号室

3. 構 成 員 16名

4. 出席構成員 16名 (別紙 出席者名簿参照)

## 5. 議事次第

(1) 開会の辞

(2) 定足数確認報告 (定款第36条)

(3) 会長挨拶

(4) 前回理事会の議事録確認

(5) 報告事項

1) 賛助会員との懇談会実施要領

2) 青年部会各県代表者との意見交換会実施要領

3) 鉄建協との共同陳情実施報告

4) NDI-UT<レベル1>資格取得支援講習会実施案

5) ワーキンググループ(WG)の新規設置について

6) 委員会等報告 ①運営委員会

②技術委員会

③品質管理委員会

④無線操作式クレーン免許対応WG

⑤特定技能外国人受入検討WG

⑥女性活躍促進検討WG

7) その他

(6) その他の事項

1) 構成員登録状況

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

3) 主要会議日程

4) 支部報告

(7) 閉会の辞

## 6. 議事要旨

### (1) 開会の辞

進行役の辰巳専務理事より開会する旨が告げられた。

### (2) 定足数確認報告

辰巳専務理事より、本理事会は、全理事 16 名が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされている旨、報告された。

### (3) 会長挨拶

米森会長より「日本各地で災害が起こっており、いつどこで何が起きるかわからない状態である。日頃の備えの大切さを感じている。この業界は、足元では中弛み感があるが、ゼネコンや設計会社の話を聞くと、着工に至っていない計画物件は多く、先は暗くないとのことである。オリンピック前後は端境期で、その後忙しくなるという予測は以前からあったが、その通りになるようだ。ただ、世界情勢は不透明な要素が多いため楽観はできないが、業界秩序を維持して明るい明日に向かいたい。

理事会後は賛助会員との懇談会、明日は青年部各県代表者との意見交換会が予定されており長丁場になるがよろしくお願ひしたい。」との挨拶があった。

### (4) 前回理事会議事録の確認

辰巳専務理事が要点を読み上げ、確認、了承された。

\*本理事会は審議事項がなく、報告事項からはじめられた。

### (5) 報告事項

#### 1) 賛助会員との懇談会実施要領

本理事会終了後に開催予定の、賛助会員との懇談会の次第、出席予定者、進行要領等が、別冊資料[理 19-5-報 1]にそって、平井総務部長より説明され、了承された。

#### 2) 青年部会各県代表者との意見交換会実施要領

翌日開催予定の、青年部会各県代表者との意見交換会の次第、出席予定者、進行要領等が、別冊資料[理 19-5-報 2]にそって、平井総務部長より説明され、了承された。

#### 3) 鉄建協との共同陳情実施報告

7 月 17 日～8 月 7 日に実施された鉄建協との共同陳情に関して、陳情活動の実施概要、陳情内容、陳情先からの回答内容の概要が、議案書[理 19-5-報 3] (p3-14) にそって平井総務部長より説明があり、了承された。

#### 4) ND I-UT<レベル 1>資格取得支援講習会実施案

第 4 回理事会(7 月 11 日開催)において了承され、その助成額については三役に

一任されていた全構協主催のND I-U T<レベル 1>資格取得支援講習会に関し、開催地、開催日時、受講予定人数、受講料等 実施要領の概要等について、議案書[理 19-5-報 4] (差替版 15-1~3)にそって高野技術部長より説明され、了承された。

また、受講者募集、講習会開催時の受付等 開催地の組合事務局に委託する業務の、事務委託費として7万円/1講習あたり 支払う案が提案され、併せて了承された。

#### 5) ワーキンググループ(WG)の新規設置について

新しい課題(テーマ)に取り組むため、鉄骨製作支援協議会(旧・鉄骨製作技術者登録機構)内に4つのワーキンググループ(WG)を設置する案が、辰巳専務理事より議案書[理 19-5-報 5](p16)にそって説明され、米森会長より補足説明があった。説明の要点は以下のとおり。

##### ○(仮称)鉄骨技術者資格法制化検討WG

・全構協(鉄骨技術者教育センターを含む)が取り扱っている鉄骨関係の技術資格(鉄骨製作管理技術者等)の、国家資格化に向けた検討を行う。

##### ○(仮称)建築鉄骨技能士制度創設検討WG

・建築鉄骨の製作に係る技術・技能を習得していることを表わす称号は、「技能検定」制度、「登録基幹技能士」制度を含めどこにもない。鉄骨製作技術者の目標となる称号が必要であると考えられるため、当該技術・技能の保有を表わす制度を新たに創設することを検討する。

##### ○ミルシート表記改善検討WG

・鋼材発注後の設計変更等により、手配済みの鋼材が余剰材になった場合等、当該鋼材のミルシートにプロジェクト名等が記載されていることが他プロジェクトへの転用を困難にしていることをふまえ、ミルシートへのプロジェクト名表記を取止めるなどの改善策を検討する。

##### ○高力ボルトサイズ集約検討WG

・昨年度からの高力ボルトの需給ひっ迫をふまえ、同様の事態の再発防止に向け、ボルトサイズの集約化等の検討を行う。

\*これらの検討は、業界統一行動が必要であるため鉄建協と協力して行うこととし、また資金面の事情で、鉄骨製作支援協議会(旧・鉄骨製作技術者登録機構)の事業として実施する。

\*また、必要に応じて鉄建協以外の団体の参加もあり得る。

\*他団体からは、専門知識と豊富な経験を有するメンバーが選出されることが予想され、当協会もこれに伍して適切な対応ができるメンバーの選出が不可欠であるため、各組合の理事長・副理事長の保有技術資格等も考慮して適任者を選出する。人選に関しては三役に一任していただきたい。

本案に対する反対意見はなく、了承された。

## 6) 委員会等報告

### ①運営委員会

運営委員会の活動状況に関し、働き方改革に対応するため各構成員が実施すべき事項を整理した資料を作成し各県組合経由全構成員に通知したことが、議案書[理 19-5-報 6①] (p17)にそって大島理事より報告され、了承された。

### ②技術委員会

技術委員会の活動状況に関し、神崎理事より口頭で以下のとおり報告され、了承された。

- ・「見積条件書作成WG」では、既存の資料をベースにして、特に付帯金物類の見積に重点を置いて必要項目の追加訂正を行っている。表記方法についても、従来の○×記入だけでは伝わらない項目に関しては記述式に改めるなど、ゼネコン担当者との交渉時の補助資料として活用できるよう工夫した。現在の進捗率は約 80%で、今後、委員会社の見積担当者の意見を織込んだ改善を加え、今年度中には完成させて構成員に配布する予定である。
- ・「CAD担当者負担軽減策検討WG」では、施工図をゼネコンに提出する際に添付する、チェックバックの進捗状況が一覧できる統一書式を作成している。比較的小規模なHグレードからM、Rグレードの構成員が活用することを想定し、短時間で作成できる内容である。具体的には、一般図の提出日・返却希望日、受領日、進捗状況等を記載するもので、附帯工事を含めた残作業が明確になりゼネコン担当者の参考にもなる。また、ファブ社内の、社長を含めた関係各部門間で、当該物件の作業進捗状況に係る情報を共有化できるとともに、特にCAD担当者の業務状況を把握することもできる。普及促進のため、また、ゼネコンの理解が得られやすくするため「全構協推奨共通様式」等と表記する予定である。現在の進捗率は約 80%で、今後、委員会社のCAD担当者の意見を織込んだ改善を加え、今年度中には完成させて構成員に配布する予定である。

### ③品質管理委員会

2019年4月～7月に実施した、国交大臣認定取得工場の「工場認定状況保持状況確認調査」の結果まとめについて、議案書[理 19-5-報 6③] (p18)にそって永井副会長及び千田部長より報告され、了承された。結果の要点は以下のとおり。

- ・回答数は 1,770 社で回答率 100%であった。
- ・体制変更があったのは 478 社で、このうち 175 社(変更ありの 37%、回答数の 10%)が変更報告書未提出であった。
- ・未提出の構成員に対しては、所属各県組合の理事長より速やかに提出するよう指導していただくこととする。

#### ④無線操作式クレーン免許対応WG

8月7日に開催された無線操作式クレーン免許対応WGでの検討状況について、議案書[理 19-5-報 6④] (p19-20)にそって、渡辺理事より報告され、了承された。報告の要点は以下のとおり。

- ・共同陳情参加依頼先 14 社・団体からの回答状況は議案書 p19 のとおりで、共同陳情への参加に同意いただけたのは 4 社・団体、不同意は 3 団体、検討中・機関決定待ち等で回答保留が 6 団体である。
- ・(一社)クレーン協会への陳情参加依頼時の同協会の発言内容は議案書 p20 のとおりで、同協会は無線操作式クレーン特有の危険要素を認識し、独自の免許区分の必要性も理解している様子である。
- ・WGの今後の方針は、
  - i)未回答の共同陳情参加依頼先からの回答を収集する。
  - ii)クレーン協会は現免許制度の矛盾・不都合を認識しており無線操作式クレーン独自の免許区分の必要性も理解している様子であり、行政機関への陳情活動は、同協会が主導することが好ましいと考えられることから、日本クレーン協会に対し、無線操作式クレーン限定免許新設に向けた陳情活動を主導するよう要請する（要請は、副会長レベルで行うことが望ましいと考える）。

#### ⑤特定技能外国人受入検討WG

特定技能外国人受入検討WGの活動状況について、西村理事より以下のとおり報告され、了承された。

- ・前回理事会でも報告したが、7月10日に開催したWGにおける検討状況は以下のとおりであった。
  - i)アンケート調査の結果、特定技能外国人を雇用する予定の構成員数は多数ではなかったが、将来の人材確保の間口を広げておくため、鉄骨製作または鉄骨工事を受入業種に指定する活動を継続することとした。鉄骨工事の管轄である国交省の制度は「建設技能人材機構」への加入、「建設キャリアアップシステム」への加入・登録が義務付けられているなど大きな負担をとらなうこと、鉄骨業界としての統一行動が求められている中で鉄建協は製造業としての受入を優先した取組みを行っていることから、当協会も、当面、国交省との折衝は保留し、経産省への働きかけを優先することとした。
  - ii)上記を受けて同省製造産業局総務課に面談の申し入れをしたところ以下の回答があった。
    - ・本制度は本年4月に運用が始まったところで日が浅いこともあり、受入業種の追加を含め制度の見直しを近々行う予定はない。将来（具体的時期は未定だが）、見直しを検討することになると考えら

れるのでその時期まで待つてほしい。

- ・その際、「製造業特定技能外国人材受入れ協議・連絡会」登録企業・団体宛てに案内を発することになるので、同協議・連絡会に登録しておくことを勧める。

iii)以上を受けて、経産省訪問は当面見合わせることにし、今後は、いつでも必要に応じた措置をとることができるよう、経産省、国交省両省の動向に注視することとする。なお、経産省の「製造業特定技能外国人材受入れ協議・連絡会」への登録申請は、7月中旬に実施済である。

## ⑥女性活躍促進検討WG

女性活躍促進検討WGの活動状況について、議案書[理 19-5-報 6⑥](p21)にそって、大竹理事より以下のとおり報告され、了承された。

- ・6名の委員のうち女性が3名という陣容で、女性の意見を取り入れながら検討を進めており、本日午前中まで5回のWGを開催した。
- ・訴求対象は、新卒者だけでなく、転職者も意識したものとする。
- ・媒体は、従来のDVDではなく、Y o u T u b e等今の若者が利用しているものを活用する。
- ・内容は、数十秒から数分の短編を7編程度で構成しハイテンポで見ることができる、これまでの全構協が制作したものとは異なる斬新な内容である。

## 7) その他

### ①原価早わかりシートの解説音声付DVD製作について

高橋副会長より以下の提案が出された。

- ・講師がいなくても自習で原価計算の手順を学ぶことができるよう、平成27年度に不況対策委員会内WGが中心になって作成した「原価早わかりシート」に解説音声を付加したDVDを作成、配布することを提案する。

同提案に対する反対意見はなく、了承された。

### ②次期会長推薦案の決定方法について

来年度の役員改選に向け、次期会長の選考方法(当理事会の推薦案の決定方法)について、次回理事会(11月21日開催予定)で協議していただく予定であるので、各理事の意見を整理のうえ出席いただきたい旨、辰巳理事より要請された。

## (6)その他の事項

### 1) 構成員登録状況

2019年9月10日時点の構成員数は、2,213社で前回報告時比1社増加したと等が、議案書[理 19-5-他 1](p22-26)により事務局より報告された。

## 2) 着工面積と推計鉄骨需要量

7月の鉄骨推計需要は48.2万トン（前年同月比0.7%減）であることが、議案書〔理19-5-他2〕(p27)により事務局から報告された。

## 3) 主要会議日程

議案書〔理19-5-他3〕(28p)により確認された。

## 4) 支部報告

### 〔北海道〕

- ・多忙な状況が続いている。
- ・8月3日にメッキボルトの講習会を開催し134名が参加した。合格率は40%強であった。
- ・9月5日に東北支部積算委員会との交流会を開催し、道内物件の見積り提出の際には、道内の相場価格を尊重するよう要請した。
- ・新規発注物件は、足元で減少しているが、図面作成に至っていない計画物件数は多いことから、今後数年間は高水準の発注が続くものと考えられる。

### 〔東北〕

- ・仕事量、稼働率ともに高水準を維持しており、ほとんどの工場は今年いっぱいこの状態が続くものとみている。
- ・HTB不足は継続している。サイズにより濃淡があるため、比較的調達しやすいサイズへの変更をお願いしているが、要望通りになるケースは少ない。
- ・若者の人材確保のため、溶接協会と協力し、高校生対象の溶接コンクール、インターンシップ制度の活用など、様々な取り組みを行っている。

### 〔関東〕

- ・HTBの需給は若干緩和している。
- ・足元の見積件数が減少しており、値崩れの兆候も見えるので警戒している。
- ・15号台風で建屋が破損した工場が多数発生し、現在も稼働できていないものもあるが、ゼネコンの理解もあり大きな混乱にはなっておらず、支部内で協定締結している災害協定の発動には至っていない。

### 〔北陸〕

- ・3県とも仕事量は確保できている。
- ・引合いは弱含みで、この先の発注量減への懸念はあるが、同業者間の情報交換を密に行い、物件を融通し合うことで混乱状態にはなっておらず、価格も維持されている。
- ・各県で賛助会員との懇談会を実施している。
- ・10月8日に支部会を開催する予定である。

### 〔中部〕

- ・前回報告時から大きな変化はないが、足元の引合物件数が減少しているような感覚がある。
- ・HTBの需給ひっ迫感は緩和しており落ち着き方向に向かっているようである。

- ・愛知県では、県の職員に対する技術講習、三重県との交流会を例年通り実施した。
- ・青年部では需給状態等 仕事関係の情報交換を積極的に行っており、稼働率が低い工場に対する 2 次下請発注などで協力関係を深めている。

#### 〔近畿〕

- ・稼働率、仕事量とも前回報告時から大きな変化はないが、引合い物件数が減少しているようである。
- ・暫く影をひそめていた、超安値の指値が、流通業者介在物件で見られるようになり警戒している。
- ・東北支部との交流会を、来月開催予定である。12 月 6 日には商社等流通業者との情報交換会を開催する予定である。
- ・現在は中弛み感があるが、その先は、万博もあることなどから、繁忙期が再来するとの見方が大方である。

#### 〔中国〕

- ・各県、稼働率は高水準を維持している。
- ・H T B の品薄感は継続しているが、一時期ほどのひっ迫感はなくなっている。
- ・広島県に関しては、サッカー場建設、中心街・駅前再開発など大型物件の計画が目白押しで高水準の発注が期待される。
- ・ただ、1 年前の大雨災害の復旧工事の予算額が低いために入札辞退するゼネコンが続出しており、これらゼネコンの中に民間建築物件に進出するものがあることから、競争激化が予想される。

#### 〔四国〕

- ・H グレードファブは半年～1 年分の仕事を確保しているが、M 以下はそれほどではない。特に R、J の対象となる小型物件の発注量が減少しており、上位グレードファブの 2 次下請で凌いでいる。今後、2020 年に向けて物件数の減少が予想され、価格への影響も心配している。
- ・徳島県では、AW 検定対策の講習を開催しており、26 社中 10 社が合格した。

#### 〔九州〕

- ・H T B 不足の影響もあり、発注の減少時期が 8 月まで続いたが、同業者間での仕事の融通がうまくできており、焦りはみられず、価格も維持されている。
- ・現在は全てのグレードの工場が今年いっぱい仕事を確保できており繁忙期に入っているが、小口物件の見積件数が減少していることが懸念材料である。
- ・同業者間での仕事の融通がうまくいっている背景には、青年部の活発な情報交換・交流等があるものと評価している。

### (7) 閉会の辞

以上をもって、報告事項、その他の事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

## 出席者名簿

会 長	米 森	昭 夫
副 会 長	村 山	功
〃	永 井	毅
〃	高 橋	伸 和
専務理事	辰 巳	功
常務理事	大 橋	利 勝
理 事	中 村	泰 男
〃	渡 辺	勝
〃	大 竹	良 明
〃	西 村	仁
〃	大 島	嗣 雄
〃	伊 藤	佳 治
〃	山 本	泰 徳
〃	井 原	常 裕
〃	神 崎	隆 一
〃	齊 藤	眞
監 事	野 田	博 文

理事総数	16名	うち出席者	16名
監事総数	2名	うち出席者	1名